

第5章 竹ノ塚踏切死傷惨事発生後の、地元の動き (「竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会」結成前後まで)

この章では、竹ノ塚踏切死傷惨事発生後の、東武伊勢崎線立体化を目指す地元の取り組みに関する資料を、2005年9月30日の「竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会」結成までに絞って収録しました。

踏切死傷惨事が発生した直後には、以下の3団体が、それぞれの立場から活動していました。

住民「竹ノ塚駅鉄道高架化早期実現の会」

竹ノ塚駅東西の町会自治会連合会を核とした、地域住民の組織です。

竹ノ塚踏切死傷惨事発生後に始めた、東武伊勢崎線の高架化を求める署名運動では、約半年の間に足立区内全域で約21万人分の署名を集めました(足立区の人口は約64万人)。

2005年5月20日には、最初の住民集会「竹ノ塚駅鉄道高架化早期実現の会・総決起集会」を主催しました。半沢は、この集会で集会発起人の古庄孝夫様(漕江町会自治会連合会会長)からの依頼で、種村直樹様(レイルウェイ・ライター、竹ノ塚三丁目在住)と共に基調講演を担当しました。

しかし「竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会」結成後は休眠状態となっています(「～協議会」としての活動には引き続き参加、「～早期実現の会」単独での活動は無し)。

議会「足立区議会鉄道高架化促進議員連盟」

足立区議会議員50名全員と、足立区に關係する選挙区から選出された東京都議会議員および衆参両院議員の、総勢61名で構成されています。

關係各所への意見書提出や、要望活動などを行ってきました。

行政「竹ノ塚駅周辺地域道路・鉄道立体化検討会」「竹ノ塚踏切対策会議」など

前者は竹ノ塚踏切死傷惨事発生前から続いていた、足立区と東京都の担当者による勉強会的なものです。

後者は竹ノ塚踏切死傷惨事発生後に、歩道橋設置などの緊急対策を取りまとめました。

2005年9月、この3者が一体となり協力して東武伊勢崎線高架化の早期実現を目指す目的で「竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会」が結成され、今日に至っています。

「～協議会」結成以降の「～協議会」としての活動については、紙幅の都合上、本書への収録を見合わせることにしました。「～協議会」の活動については、筆者のホームページ(URLは奥付に記載)に「竹ノ塚踏切死傷惨事発生後の、東武伊勢崎線高架化を目指す地元の取り組みに関する情報」の題で紹介しておりますので、そちらをご参照いただければ幸いです。